

Ⅲ あと二口食わせるために

これまでの章で、乾物摂取量とは何か、また、どのようなことが乾物摂取量に影響を与えているかが、ご理解いただけたかと思います。

第Ⅲ章は、いよいよ実践編です。まずは乾乳牛、そして搾乳牛では、つなぎ飼い、フリーストール・ミルクパーラーに加え、近年導入が増えているフリーストール・搾乳ロボットの3つの飼養形態における「乾物摂取量を高めるポイント」を紹介します。

搾乳牛の3つの飼養形態を人間の生活と食事場所に例えると、こんなところでしょうか？

繋ぎ飼い

- 決められたベッドルームで生活する。
- 仕事時間は決まっており、ベッドルームに本日の業務が届けられる。
- ベッドルームに食卓があり、食事は個々に数回に分けて配られる。

→ 全てを同じ場所で行うため、食卓が汚れやすい

フリーストール・ミルクパーラー

- 自由に行動でき、ベッドルームは仕切られていて場所は自由に選べる。
- 仕事時間は決まっているが、職場が少し離れているので、上司が迎えに来る。
- 食堂はみんなで共有し、主に配膳時や仕事終わりに自分で歩いて食べに行く。

→ 混み合う時間の食堂では、人気の場所をめぐる争いが起こりやすい

フリーストール・搾乳ロボット

- 自由に行動でき、ベッドルームは仕切られていて場所は自由に選べる。
- 仕事時間は決まっておらず、いつ働いても良いが、あまりサボると強制労働。
- 人数分のイスがない食堂をみんなで共有し、時間をずらして自分で歩いて食べに行くことになっているが、配膳はまとめて行われる。

→ 食堂は配膳時に混みやすく、席が少ない分、より争いが起こりやすい

この章でご紹介するひとつひとつの技術の実践では「あと一口」ですが、技術の組み合わせにより効果は2倍、3倍となり、「あと二口食わせる」ことにつながります。今日の夕方、明日の朝からすぐに取り組める内容もあります。ご自身の牧場に合ったページをご覧ください。できることから始めてみませんか？